

第3期 河内長野市地域公共交通網形成計画（案）【概要版】

【平成27年度～平成29年度】

～ 乗って 出掛けて わがまち元気に！ ～

1. 河内長野市における公共交通をとりまく現状と課題、基本方針

分類	現状・問題点	課題
公共交通ネットワーク	・公共交通の空白・不便地域が存在	まちづくりとの連携 ・既存の鉄道網や地形を踏まえ、自動車に過度に依存しない施設配置等、まちづくりとの連携が必要
人口	・総人口は平成12年をピークに減少 ・将来は人口減少しつつ高齢者人口が増加する見通し	公共交通利用者数の維持・発展 ・人口は減少するが、公共交通の利便性を確保するためには、利用者数の維持・発展が必要 ・市民や来訪者が利用しやすい公共交通を構築し、発展を図る
公共交通利用者数	・鉄道、バスとも平成3年をピークに減少傾向 ・モックルコミュニティバスは増加傾向となっていたが、近年減少傾向に転じている ・モックルコミュニティバスは、休日は平日に比べて利用者数が少ない ・日野・滝畑コミュニティバスは平成17年度以降減少し、平成22年度以降は微増と微減を繰り返している ・楠ヶ丘地域の乗合タクシーは前年同月に比べて増加傾向	公共交通空白・不便地域の解消 ・地域が存続するためには、免許や自動車を持たない市民も安心して生活できる移動環境の確保が必要
交通手段	・交通手段分担率は、自動車が増加し、鉄道、バス、徒歩が減少傾向	
市民意向	・バスの改善点は、「一日の便数」が最も多くなっており、次いで「運賃」「運行時間帯」「自宅からバス停までの距離」「運行ルート」の順に多い	

基本方針：持続発展できる公共交通を確保するための取り組み

- 少子高齢化等の動向を踏まえた、誰もが利用しやすい公共交通を目指した利用促進
- 関係者と協働し、地域が主体となった公共交通等の運行確保
- 地域別まちづくりと一体化した公共交通のあり方の検討

公共交通の観点から、施策実施により目指す“元気なまち”のイメージ

- 公共交通で移動しやすい都市的魅力がある”まち”
- 日常の移動が確保された安心できる”まち”
- 交流が活発で活気のある”まち”

【展開スケジュール】

展開1	①公共交通に対する市民意識の向上とPR等の利用促進施策（各段階を通じて実施） ②市民主体の取り組みの仕組みづくりと試行的な取り組み（交通空白地域などで実施）
展開2	展開1での成果を踏まえ、他地域への展開を図る
展開3	展開1・2を踏まえた市民意識の高まりにより、協働による持続可能な公共交通ネットワークの確立

【基本とする交通体系】

本市の交通体系の基本方針は、現状の都市核に公共交通が集積している交通体系の維持・充実を図り、それぞれの都市核が交通結節点として鉄道・バスなどへ円滑に乗り継ぐことができる交通体系を目指します。

2. 第3期形成計画の区域と期間

【対象区域】

河内長野市全域

【期間】

第3期河内長野市地域公共交通網形成計画				
第1期	第2期			
21～23年度	24～26年度	27年度	28年度	29年度
		第3期河内長野市地域公共交通網形成計画		

3. 第3期形成計画の目標

- 将来のまちづくりを支えるための公共交通サービスの提供
「元気なまち」をつくるには、誰もが安心して生活できる移動環境を構築し、外出の機会を増やすことが必要です。そのため、利用促進、高齢者の移動支援、世代間交流につながる公共交通サービスの提供を目指します。
- 公共交通サービス水準の向上
住民が主体的に取り組む要望のある空白・不便地域において、最適な運行形態等を協議して試行運行等を行い、公共交通空白・不便地域を解消することを目指します。公共交通サービス水準向上のため、公共交通空白地域、公共交通不便地域を右記のように見直すこととしました。

表 公共交通空白地域、不便地域の変更内容

項目	第1期、第2期連携計画における設定	第3期形成計画における設定
公共交通空白地域	駅から1,000m、バス停から500m以上のエリア	駅から800m、バス停から400m以上のエリア
公共交通不便地域	駅から500m、バス停から500m以上のエリア	駅から400m、バス停から400m以上のエリア

4. 事業の概要及び事業の実施主体に関する事項

